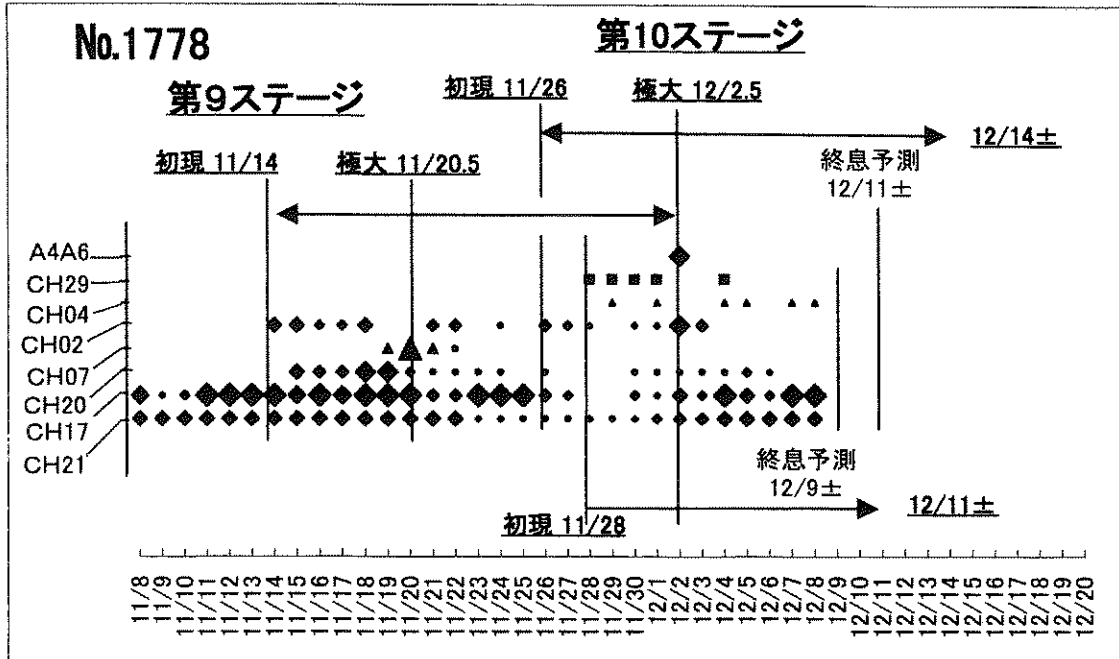


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 12/8夕刻の前兆状態から⇒12/9未明に前兆完全終息の可能性考えにくい



No.1778長期継続特殊前兆は、現在第10ステージにあると認識しています。第10ステージの極大は、12月02日と認識しています。上図は11月20日極大認識の第09ステージから現在までの前兆出現状況を模式化した前兆出現状況図です。

2008年07月から9段階の前兆群が出現し、各ステージが示した日は前兆が完全終息せず、従って地震発生日とはならず、次ステージの最初の極大等となって、前兆が長期継続して参りました。仮に現在の第10ステージが最終段階である場合は、第10ステージの示す日が地震発生日となるため、初現～極大(T_{fap}:T_{map}=20:13経験則)や、極大～終息(T_{fap}:T_{pp}=6:1経験則)を使用して第10ステージの示す日を求めなければなりません。

極大は、12月20日昼頃と認識されますが、初現については、第9ステージ前兆が出現中で確定は困難です。11月28日のCH29BTを初現認識した場合は、12月11日発生が示唆され、これが正

しい場合は、12月09日未明には前兆終息が観測される筈となります。しかし上図のとおり、CH17系状特異とCH21特異が継続中で、断続的でも無い状態で、10時間以内に終息の可能性は現状少々考え難い状態です。従って初現認識に誤りがある可能性が示唆されます。次に可能性が考え易いのは11月26日です。これを初現認識しますと、12月14日発生が示唆され、この認識が正しい場合は、12月11日昼前頃前兆終息が観測される筈となります。下に今後終息が観測された各日の場合の推定日を列記しました。誤差も含め12日迄に終

- 12/09.1 終息の場合⇒12.11.4±
- 12/09.9 終息の場合⇒12.12.5±
- 12/10.6 終息の場合⇒12.13.4±
- ※12/11.4 終息の場合⇒12.14.5±
- 12/12.1 終息の場合⇒12.15.4±

※12/9中等に前兆終息した場合は、12/9深夜に続報を更新予定です。但し、前兆が終息しない場合は、前兆終息を確認したのちに続報更新予定です。12/12迄に前兆終息が確認できない場合は再考し続報更新予定です。

◆推定領域：右図 太線領域内=大枠推定領域
斜線領域=可能性が考え易い推定領域
※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解)

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：実際の前兆終息を観測した後、推定予定
※12/11 終息した場合=12月14日±1

◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震
◇推定発生時刻：午前09時±1 (又は午後06時±3)